

早川平会計事務所通信

8月号 VOL. 117

税理士法人早川・平会計

〒101-0048

東京都千代田区神田司町2-10安和司町ビル2階

電話：03-3254-2171 F A X：03-3254-2174

<http://www.ht-tax.com>

mail : y. taira@ht-tax.com



毎年、春、夏、冬に期間限定で発売される「青春 18 きっぷ」。JR全線の普通・快速列車が一日乗り放題になることは知っていても、若者だけでなく誰でも使えるということは意外と知られていないようです。『青春 18 きっぷで楽しむおとなの鉄道旅行』などの関連本も出ています。この夏、電車で一人旅に出てみませんか。

【法人税の実地調査を受ける確率は何%?】

税務調査はさまざまありますが、おおよそ「課税処分のための調査」「滞納処分のための調査」「犯則事件のための調査」の3つに分類できます。「課税処分のための調査」とは、課税処分をするための資料を収集することを目的とした調査です。納税者の申告内容が正しいかどうかを判断するために、帳簿や請求書などの書類をチェックします。これは国税通則法に規定されている質問検査権に基づく調査になります。「滞納処分のための調査」とは、滞納になっている税金がある場合、滞納処分手続きをするにあたり滞納者の財産の有無・所在・種類・数量・価額・利用状況・第三者の権利の有無などを明らかにする調査です。これは国税徴収法による調査となります。「犯則事件のための調査」は、査察調査のことを指します。不正の手段を使い故意に税を免れた場合には、正当な税を課すほかに刑罰を科すことが税法に定められています。この調査は、裁判官の許可を得ているので任意調査ではなく強制捜査になり、実質的には刑事手続きと同じように進められます。国税庁の発表によると法人税の実地調査件数は、平成二十四事務年度9・3万件、平成二十五事務年度9・1万件、平成二十六事務年度9・5万件となっています。日本の法人数が約260万社ですから、実地調査は3・5%前後の割合で行われていることとなります。



【デジタルが溢れて際立つ「写ルンです」】

使い切りカメラとして一世を風靡（ふうび）した「写ルンです」が、女子大生らを中心に脚光を浴びています。デジタル画質とは異なるフィルム独特の風合い、1枚1枚を大切に撮る感覚がアナログを知らない若い世代には新鮮です。現像に出して仕上がり待つワクワク感、お気に入りの1枚をSNSに投稿する満足感。シンプルな作りながら進化を続けた「写ルンです」は現像後、工場分解してリサイクルするビジネスモデルも秀逸で、見事な復活劇を演じています。



A型	B型	O型	AB型
詰め込み過ぎが凶作用を招く暗示。適度に息抜きをするなど簡単なリラックス方法を取り入れて行動すると吉！	積極性が吉誘導を引き起こす運勢です。着実に「一歩前進」を意識して行動すれば、次第に目の前が開けます。	多忙な一カ月となりそう。雑務に追われ思うように進まなくても、基礎固めの時と心得て手抜きをしないこと！	アイデアが浮かびやすい運勢。思い付いたことはしっかりメモしておきましょう。アイデアを形にするのも吉！

【「最良」の反対は？】

「成功」の反対は何でしょう。今では小学校でも使われるくらいよく知られた問い掛けです。成功の反対は「失敗」ではなく「何もしないこと」、または「チャレンジしないこと」ではないでしょうか。思うような結果が得られなかったとしても、それは成功の種まきだったというわけです。では「最良」の反対は何でしょう。辞書には「最良の反対は最悪」と書かれていますが、もちろん辞書的な意味を問い掛けているわけではありません。

「最良の反対は良である」と言ったのは、主に自費診療を提供している歯科医のK氏でした。保険という制度のある日本では、保険診療をしたほうがビジネスとしては楽かもしれません。けれど本当に必要な歯科医療を提供しようと思ったら、保険制度の中で無償の部分を増やすか自費にするかの難しい選択だそうです。

K氏自身、以前は保険請求できない部分は修行だと思って辛抱し、患者の健康のためにそこそこ良い診療をしている自負がありました。「まあまあなことはしているから、この程度でも他の歯医者よりは良いことをしているはずだ」。そうやって自分を鼓舞する反面、常に頭から離れないのは「これはベストな診療なのだろうか」という迷いでした。



そんな葛藤の日々の中でK氏が出会ったのが、先輩歯科医であるY氏の「最良の反対は良である」という言葉だったそうです。「そこそこ良い」は「ベストを尽くすこと」を妨げる。「まあまあ良いことをしているから」という思いでいると、その先の一步、さらにもう一步がなかなか出ない。

さらにもう一步がなかなか出ない。

Y氏の言葉にK氏は背中を押されたと言います。

「そこそこやっているけれどベストではないことは分かっている。分かっているながらも現実に向けてきた自分と向き合うときが来たのかもしれない」と。

誰もが上を目指す必要はありません。ただ、自分なりのベストを追い求める商売ができれば、きっと良い人生になるだろうと想像します。



【ツバキ文具店】

亡き祖母が営んでいた代書屋を継ぐことになった主人公が、依頼主に代わってさまざまな手紙を書いていく物語です。友人からの借金依頼を断る手紙に、依頼者の友情を込めることができるのか？今すぐにも手紙を書きたくなる一冊です。

